

## 『お医者さんも来なくなる地域づくり』の鈴木さんからお便り

昨年11月8日の「民報」で、鈴木土身<sup>どみ</sup>『お医者さんも来なくなる地域（まち）づくり』の本を紹介しました。その鈴木さんから御礼のお手紙が5月26日届きました。

「あえて敵をつくらない住民運動」という表現はなかなか微妙です。加藤さんのように分かっていただけの方がいると、とても嬉しくなります。」

秋田魁新報の「社説」と地域調査の報告書ダイジェスト版など多くの資料が同封されました。

### 秋田魁新報の社説

秋田魁新報の昨年11月24日の社説では、「鹿角の医師確保策―住民主体の活動が力に」を取り上げ、その中で次のように紹介しています。

「会の活動の基本になったのが『あえて敵をつくらない運動』だという。」

誰かに不満をぶつけない中、県や両市町、病院、常勤医の派遣を取りやめた大学とも協力。

国の政策が地方の医

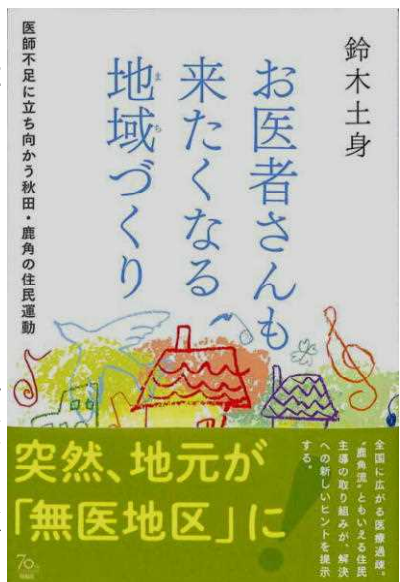
QRコード

民報HP

師不足を招いた最大の要因とし、地域医療の関係者と立場を超えて連携する姿勢が共感を呼んだのは間違いない。……。」

### 攻撃性のない地域を

鹿角市の市民町民の会は、「悪者をつくり責める相手をつくれれば、お医者さんを迎える環境がつかれないと気づいた」と言います。



お医者さんも来なくなる地域（まち）づくり  
鈴木土身著（旬報社） 1430円

## くしびき温泉ゆるTownの食堂 庄交コーポ運営で新装オープン

くしびき温泉ゆるTownの食堂が5月29日、新たに庄交コーポレーションの運営で新装オープンしました。

通常600円の「ふるさと中華そば」が、6月13日（日）までワンコインの500円で提供されます。

営業時間は午前11時から午後3時まで。毎月第3火曜日が定休日。



## 月山とわたし 7

加藤貞雄（山王町）

### ■冬の月山

冬の月山はなかなか顔を見せない。久しぶりに雲の間に青空が見え隠れする朝、2階の窓から隣家の屋根越しに月山を目にするときは、居ても立ってもいられなくて、そそくさと羽黒の方へ車を走らせることがある。

時おり顔を出す冬の遠望の月山もいいが、その巨体に迫って、風雪に耐えながら凜としている姿にじかに迫って実感でとらえて描いてみたいという積年の思いであった。

ある年の3月末のことである。月山牧場までの道の除雪がやっと終わった日の翌朝、写生用具と防寒着やかんじき、スコップなどを車に詰めてそそくさと家を出た。冬の月山に迫って描いてみたいという積年の思いだった。

曇ってはいたが、月山は姿を現していた。牧場に近づくと除雪された道路の両側は身の丈をこえる雪壁で、辺りの景色はなにも見えない。これだけの圧倒的な雪が庄内の稲を実らせているのだと感動



しながら車を走らせた。除雪の終わるところで車を降り、防寒着を丸々と重ね、かんじきを履き、スコップで雪の壁を崩しながら、どうにかその壁の上上がったとき、目に飛び込んだできた光景に息をのんだ。厳かにたたずんでいる月山の存在感とその美しさ。山肌を斜めに鋭く、あるいは太く走る濃藍の線が月山の厳しさをいつそう際立たせている。

山頂付近は雪煙が渦巻いていて、その直下は白壁となつてなだれていた。白い山腹に点在する無数の斑点は、雪に埋もれた針葉樹の先端であった。

中腹では、紫がかつた樹林の根が尾根を登っていた。

山麓は落葉樹と針葉樹が混じり合つて暖かい色調を漂わせてひろがり、ところどころ落葉松（からまつ）林の黄褐色がひとときわ鮮やかに彩りを添えていた。足下の雪面は固く、砂丘の風紋のように波打っている。ときおり吹きつける寒風の音も、雪に吸い込まれてか、静かさが辺りに満ちていた。

季語に「冬眠る」とあるが、月山の冬は目を覚まして生き生きとしているなと思つた。寒風の中、自然との一体感を覚えながら、首から吊した画板の上でエンピツを走らせた。（つづく）



